

平成 21 年 11 月 5 日

各 位

会 社 名 レオン自動機株式会社
 代表者名 代表取締役社長 林 啓二
 (コード番号 6272 東証第1部)
 問合せ先責任者 常務取締役兼上席執行役員
 管理本部担当 山崎 俊明
 (TEL. 028-665-1111)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 21 年 5 月 14 日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

平成 22 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 9,000	百万円 280	百万円 230	百万円 100	円 銭 3.56
今回発表予想(B)	7,808	246	330	86	3.12
増減額(B-A)	△1,191	△33	100	△13	—
増減率(%)	△13.2	△12.0	43.7	△13.3	—
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 21 年 3 月期第 2 四半期)	8,877	269	251	△131	円 銭 △4.67

平成 22 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 18,000	百万円 520	百万円 540	百万円 300	円 銭 10.68
今回発表予想(B)	16,500	500	500	200	7.19
増減額(B-A)	△1,500	△20	△40	△100	—
増減率(%)	△8.3	△3.8	△7.4	△33.3	—
(ご参考)前期実績 (平成 21 年 3 月期)	17,880	483	426	△397	円 銭 △14.14

平成 22 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間個別業績予想数値の修正 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 6,700	百万円 50	百万円 50	百万円 10	円 銭 0.36
今回発表予想(B)	5,318	△71	12	△91	△3.30
増減額(B-A)	△1,381	△121	△37	△101	—
増減率(%)	△20.6	—	△74.1	—	—
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 21 年 3 月期第 2 四半期)	6,318	87	73	△267	円 銭 △9.48

平成 22 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 13,500	百万円 100	百万円 150	百万円 50	円 銭 1.78
今回発表予想(B)	11,500	100	150	50	1.78
増減額(B-A)	△2,000	—	—	—	—
増減率(%)	△14.8	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成 21 年 3 月期)	12,524	△157	△229	△855	円 銭 △30.46

修正の理由

第2四半期累計期間業績予想について

〔連結〕

食品加工機械製造販売事業におきましては、製パンライン等の売上は増加しましたが、食品成形機および部品・修理の売上につきましては、世界規模の景気後退により個人消費が低迷し、特に中小規模企業の設備投資縮小と保守工事控えの影響を受けまして、売上高並びに利益ともに減少いたしました。

食品製造販売事業におきましては、米国のオレンジベーカーリーにおいて現地での売上高は増加したものの、為替の円高により売上高は減少しましたが、生産性向上による原価低減、原材料の価格低下および売上商品の拡大等によって利益は改善されました。

〔個別〕

食品加工機械製造販売事業におきましては、個人消費の低迷による設備投資の抑制により、売上高は計画を下回りました。利益につきましては、販売管理費の削減に努めましたが、売上減少に伴う利益減をカバーするに至りませんでした。

通期業績予想について

〔連結〕

連結の通期予想につきましては、引き続き景気の停滞に伴う設備投資環境の回復遅れと円高懸念など厳しい状況が予想されることから、食品加工機械製造販売事業においては大幅な好転が見込めず、業績予想を修正いたしました。

〔個別〕

国内の個人消費の低迷と設備投資抑制傾向の厳しい受注環境が続くものと判断して、業績予想の修正をいたしました。第3四半期以降も引き続き経費削減・原価低減の取り組みと、新製品「火星人 CN 570型」の販売拡大により利益の確保を進めてまいります。

※ 上記の業績予想については、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上